

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム あかつきの里		
所在地	山口県下関市汐入町36-6		
電話番号	083-222-3202	事業所番号	3570100713
法人名	社会福祉法人 暁会		

訪問調査日	平成 20 年 11 月 18 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 23 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人 非常勤 4 人 (常勤換算 9 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	~ 2 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 25,350 円	敷金	0 円
保証金	0 円	償却の有無	
食費	朝食 250 円	昼食 400 円	
	夕食 400 円	おやつ 200 円	
その他の費用	月額 5,900 円		
	内訳 光熱水費		

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者数	9 名	男性 名	女性 9 名
	要介護1	2	要介護4
	要介護2	4	要介護5
	要介護3	3	要支援2
年齢	平均 84.3 歳	最低 71 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 昭和病院 ・ あかつきクリニック 歯科 昭和病院
-------------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

ホームは海に面した高台に位置し、特に夕日の沈む光景は、誰もが感動し、恵まれた環境にあります。広いリビングには、本や雑誌、利用者の作品(はり絵、季節の飾り物)が飾られ、生活感や季節感のある空間となっています。また、利用者も職員も明るく笑顔にみち、利用者の残存能力を引き出せるよう、職員全員で取り組まれています。

(特徴的な取組等)

法人として、職員の処遇に配慮がされ、産休や育休制度、職員の学習についての環境も整い、職員の働く意欲や就労継続につながっています。相談や苦情に対する前向きな取り組みがされています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

運営推進会議の増員や開催回数、第三者委員の選任など、評価結果や改善点を協議して業務内容を見直しています。

(今回の自己評価の取組状況)

自己評価書を職員全員に配布し、記入して検討しています。日々のサービスを振り返りながら、改善点や課題が明らかになり、施設の質の向上に役立っています。

(運営推進会議の取組状況)

メンバーは、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者、施設職員で構成し、2か月毎に開催し、施設の状況や課題等を話し合っています。

(家族との連携状況)

毎月発行するホーム便りと金銭管理の報告、家族会や各種行事参加時に声がけをしています。又面会時や電話で様子を伝えたり、意見や要望を聞き、介護計画に反映しています。

(地域との連携状況)

自治会に加入して、夏祭りを地域と共同で開催したり、海岸清掃への参加や土曜朝市、散歩時に、地域の人と声をかけ合って交流に努めています。災害避難時に地域の協力が得られるよう運営推進会議を通じて働きかけがされています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「家庭的な雰囲気の中で、自由で楽しく穏やかな生活が送れるよう、地域との関わりを深め、ぬくもりのあるケアを提供します。」という理念を作り上げ、地域の中でその人らしく暮らし続ける支援をしている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念をホーム内に掲示し、会議で唱和するなど、理念を確認しあい、実践に繋げるよう意識して取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入しており、夏祭り、地域清掃など地域活動にも参加し、ボランティアの来訪等の窓口を広げ、地元の人々と気軽に声をかけてもらえるよう、馴染みの関係づくりに努めている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各職員が自己評価書に記入し、職員全員で検討され、外部評価の改善点には優先順位をつけ改善に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	メンバーを2名増員し、開会回数も2ヶ月ごととして、参加者からの質問・意見交換を行うなど、協議内容も充実してきている。	○ ・メンバーの検討(消防署員、交番職員等)
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外にも、電話での相談や助言を得て、課題解決とサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、ホーム便り、金銭管理の報告、暮らしぶりを手書きの手紙を添え郵送し、面会時も生活状況や健康状態を伝えている。遠方の家族には電話でも連絡をしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	入居時や面会時、家族会を通じ意見を出しやすい雰囲気作りを常に心がけている。意見箱の設置、相談、苦情の窓口、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きも明確にしている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	一日を通して必要な時間帯に職員を確保しており、利用者の状況に合わせ、柔軟な体制が取れるように努めている。また、勤務調整についても職員間で話し合い、無理のないように心掛けている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限に努め、やむを得ない異動や離職の場合は、馴染みの職員の異動によるダメージを防ぐため、1か月の重複勤務を心がけ、利用者や家族への配慮に心掛けている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の機会を全員に確保し、外部研修は勤務の一環として交替で受け、法人内研修も積極的に受講出来るようにし、共通理解と、介護技術の向上に努めている	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、同グループ内や地域の同業者と交流するための研修会等にも参加し、サービス向上につなぐよう取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に利用者と家族に出来る限り訪問していただき、見学・体験をして馴染めるようにさりげなく対応する工夫をしている。入居後は家族が面会を頻繁にされるように働きかけている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は家族の一員であるという視点を常に持ち、外出や買い物・調理など一方的な関係にならないよう心がけている。日々の生活やホームの周囲の四季折々の変化にふれながら喜怒哀楽を共にし、人生の先輩である事を忘れずに、支えあう関係づくりに取り組んでいる。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の生活の中で一人ひとりの思いを聞き取り、意向の把握が困難な場合は、家族からの情報も得て職員間で話し合い、本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の訪問時等に希望を聞き、毎月1回のカンファレンスにて、職員全員で意見や日々の気づきを話し合い、介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>基本的には3か月毎にモニタリングと介護計画の見直しを行っている。病状等の変化時には、その都度、利用者、家族の意見も取り入れて全員で協議し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>希望の美容院への送迎付き添い、個別の外出支援など、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に家族の希望を確認し、希望される他科受診は家族同伴、希望時は職員と受診している。日頃から、かかりつけ医や協力医との連携も良く取れ、適切な医療が受けられるように支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現時点では、重症化した場合や終末期は対応可能な施設へ移している。本人、家族、医師、看護師、職員で早い段階から話し合っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	全職員がプライバシー保護の徹底を確認しあい、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮し、記録等の個人情報も収納や保管に配慮している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合ではなく、一人ひとりのペースに合わせ、散歩や買い物、趣味等希望に沿って柔軟に支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	施設内で、朝食、夕食とおやつを調理し、昼食は法人内の施設の配食を利用している。調理、配膳、後片づけを利用者と一緒に行っている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は夏季は毎日、冬季は隔日の14時～17時としているが、出来る限り利用者の希望を聞きながら、入浴が楽しめるように支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備や後片づけ、園芸、散歩、読書やカラオケ等の場面作りや楽しみ事、気晴らしの支援を行っている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	事業所の周囲の散歩やドライブ等一人ひとりの希望に沿い、短時間でも戸外に出る機会を作って支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	拘束について全職員が正しく認識しており、常に介護を振り返り、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。拘束についての研修も年1回は実施している。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の状況を把握し、見守りをする事で日中は施錠せず、自由な暮らしを支援している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと・事故報告書を作成し、再発防止、今後の対応方法を職員全員で検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て、年2回応急手当、救急救命法を受講している。緊急時マニュアルは整備されているが、協力病院が隣ということもあり日頃の訓練は充分ではない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルがあり、消防署の協力を得て、年2～3回避難訓練を実施している。	・具体的な避難経路、利用者に合わせて移動の手順等の実施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報をファイルし、全職員が目的、副作用、用途、容量を理解しており、服薬は手渡し確認している。飲み忘れや誤薬を防ぐために投薬カレンダーに入れ管理している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	口腔ケアの必要性を職員全員が理解し、一人ひとりに合わせた声かけや見守りで歯磨き、保管、清掃、消毒の支援を行っている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量は記録しており、日頃の様子や生活習慣を観察し、摂取できるよう支援している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、法人内の研修に参加している。必要な予防接種の実施や日常的に清潔を保てるよう留意し、手洗いやうがいを励行し、全職員で感染症予防対策に取り組んでいる。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	リビングの随所に季節の花を生け、本棚には沢山の週刊誌や話題の本が並び、季節にふさわしい作品を飾り随所に生活感や季節感が感じられる。天窓からの光は程良い明るさで、居心地良く過ごせるよう工夫がされている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	アルバムや本、ぬいぐるみや使い慣れた家具等が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム あかつきの里
所在地	〒750-0059 山口県下関市汐入町36-6
電話番号	083-222-3202
開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

利用者・家族・職員が安全と安心の中で一体となることを目指してケアを行っています。手作りのものに囲まれた温かい環境の中で、ゆったりとその人らしさを大切に... レベルの差がある9名ですが、さりげなくお互いを助け合い、生き生きとした言動や笑顔で、過ごしていただく為の優しいケアを心掛けています。

【実施ユニットの概要】 (10月1日現在)

ユニットの名称	グループホーム あかつきの里			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	0 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護1	2	要介護4	0
	要介護2	4	要介護5	0
	要介護3	3	要支援2	0
年齢構成	平均 84.3 歳	最低 71 歳	最高 95 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	利用者様にとって、安心と信頼に向けた関係作りが出来ているか、又、その人らしい暮らしが支援できているのかを、客観的に見つめなおし、サービス水準の向上に向け、職員全体で取り組み評価を行った。
評価確定日	平成 20 年 10 月 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		地域との関わりを深め、自由で楽しく穏やかな生活を送れるよう支援することを事業所独自の理念としている。
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		ホーム内に理念は掲示しており、スタッフ会議や日々の会話の中で確認し合い実践につなげていくよう意欲的に取り組んでいる。
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		管理者は、事業所の運営理念を日常的な会話や申し送りで明確に伝えている。
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		運営者や管理者は、会議の中で十分な話し合いを行い、意見を尊重しあい、サービスの質の向上に向け、前向きに取り組んでいる。
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		地域への行事の参加やホーム便りにて、理念を掲げ家族や地域の人々に理解して頂けるよう取り組んでいる。ホーム便りは来設時には誰でも持ち帰ることが出来るようにしている。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		いつも気軽に声をかけていただける様に、明るい表情での対応を心掛けており、近隣の人などに手作り野菜を頂いたり、散歩されている方から、声を掛けて頂き、馴染みの関係を築いている。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		地域の一員として自治会の開催している海岸清掃など地域活動に参加している。夏祭りも自治会と合同で行っている。自治長宅へ手紙を届けたり、土曜野菜市や散歩への際には、隣近所に声を掛け合うようにしている。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		運営推進会議のあり、少しずつではあるが、認知症と地域の高齢者の暮らしについて話し合い役立つ事がないか模索している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各職員が自己評価を記入して全員で検討した。外部評価の改善点には意見交換をして優先順位をつけ改善に取り組んでいる。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	メンバーは自治会長・地域包括支援センター・家族・利用者・施設職員に加え、民生委員2名が参加して下さり回を重ねる度に協議内容も豊富になってきている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	推進会議以外の連携は難しく十分ではない。今後も積極的な関わりがもてるように工夫し努力する必要がある。	積極的な関わりの工夫
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するように支援している。	地域福祉権利擁護については、利用されている利用者がいらっしゃるの、不明な点などはその都度質問などして、関係者の方とは連絡を密に取っている。また権利擁護に関する制度については、運営推進会議時に地域の方々と共に地域包括支援センターのケアマネさんから学んでいる。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待については、全ての職員が認知しており、日々の業務の中でも常に話題とし未然防止に努めている。又、推進会議時に自治会の方々からの話を傾聴し、地域包括支援センターのケアマネさんを交えて防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約及び解約する際は契約書・重要事項説明書・パンフレットを用いながら、時間をかけ誠意を持って理解・納得していただけるまで何度も説明している。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談のホーム受付窓口は明示されており、苦情処理の手順も明文化されている。会議等も行っている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月ホーム便り・金銭管理上の報告・暮らしぶりについては、手書きの手紙を郵送している。面会時には、生活状況や健康状態を話し、遠方の家族には電話で連絡している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	情報開示の要求には、他の利用者のプライバシー上支障のない限り要求に応じている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族が遠慮なく意見を述べられる雰囲気作りをし、又、家族会を開催して、家族同士の意見交換等も活かしている。ホームの玄関口に苦情箱を設置し、苦情受付窓口の職員も決めて、第三者委員と明示し、苦情処理の手続きも明確にしている。		第三者委員の選任ができています
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、日々の報告により、利用者及び職員の状況を把握しており、職員会議の場で、職員の意見や提案を聞き、改善に反映している。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	一日を通して必要な時間帯に職員を確保しており、利用者の状況に合わせ、柔軟な体制が取れるように努めている。又勤務調整についても無理のないようにしている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの職員の異動によるダメージを防ぐ為、なるべく異動や離職の場合は、1ヶ月の重複勤務を心掛けており、本人や家族への配慮に心掛けている。		異動によるダメージについての理解と配慮
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員を育成するための研修は、交代で受けており、法人内においても、病気や感染に対する研修は積極的に受け学んでいる。		職員の質の向上を図り、ホームないでの勉強会も行っている。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	職員の年代は、現在偏りつつあるが、利用者の気持ちは、しっかりつかみ対応出来ていると思われるが、反面、祖・孫の関係を味わって頂くことは難しい。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者や職員は、同グループ内、及び地域の同業者と交流する為の勉強会や研修に参加し、相互訪問等の活動を通じて、サービス向上につなげていけるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	一緒に過ごす上で、体調・精神状態を見て、個人的な話を聞いたりして支援をしている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	御本人・家族より今まで生きてこられた生活歴、両者の関係を踏まえつつ、面会の機会を増やして頂ける事でより良い関係が保てる様に心遣いをしている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染み人との交流を支援する為、本人が過ごされた地域に買い物に行く事で再会されたり、手紙での交流のある方には途切れない様に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を観察し、楽しく一日が送れるよう、席の配置、性格的に孤立しがちな方には、職員が介入することで、穏やかな雰囲気作りをしている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、相談・支援には心配りをし、入居時より培ってきました信頼関係を継続的に支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位の暮らしであるように、職員全員が情報を共有し取り組んでいる。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントを行い、入居前の暮らし方を把握し、参考資料とし、職員の気付きも加える事により自分らしく生活される事を支援している。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の生活の日記を書き、一日の過ごし方、本人のできる力・分かる力を全職員で把握し、総合的に支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の来所時等に希望を聞き、カンファレンスにて、職員全員で意見や気づきを話し合い、介護計画作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には3ヶ月毎に見直し行っているが、入院や変化が生じた時には、その都度会議を開き、家族の意見も取り入れ見直し行っている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルがあり、日々の暮らしの様子や、本人の言葉を記録し情報を共有している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	隣接の病院と、医療連携体制を整えている。移送サービスの理美容を利用している。又、墓参りはご家族と一緒に行われている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	中学生や高校生の体験学習や保育園児との交流を行い、ボランティアの受け入れ行っている。	自治会の集合に参加することを検討中。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ボランティア・ヘルパー又は研修医等の積極的な受け入れを行い、グループホームについて理解が深まるよう努めている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて他のサービスが利用できるように、協力している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	一人の人間の誇りを尊重し、プライバシーの保護を全職員確認し、記録等個人情報は他者の目につかない所に保管している。	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	言葉では十分意思表示が出来にくい人であっても、自身で意思決定出来るように、ゆっくり話を聞く事で生活の支援をしている。	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	家事・居室の清掃・衣類の整理整頓・衣替え等を自主的に出来るよう、衣類の入れ場所に目印をつけるなど工夫し支援している。	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	日々の生活の中で、その人らしい一日の過ごし方を、職員の都合ではなく本人本位で過ごして行くように支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	希望に合せ、家族の方の協力を得ながら、本人の行きつけの美容院へ行って頂く。又、移送サービスの理・美容(ビューティーヘルパー)を利用してホームに来て頂き、その人らしいおしゃれがして頂けるように支援をしている。	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	食事が楽しいものであるように、食事作り、おやつ作りに関わって頂き、喜び、楽しみを持って頂くように支援している。	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	本人の好みを把握し、一緒におやつ作りなどして頂き自宅に居る時と同じ様に楽しめるよう支援している。	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、声かけ誘導し、失敗されても傷つけないように回りに気づかい、プライドを傷つけないよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	利用者の生活のリズムに合わせ希望を聞き、入浴前はバイタルチェックで体調確認し、状態に合わせて介助し、一人での入浴希望がある方には一人で入れるように配慮。声掛け見守りしながら楽しんでもらっている。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	一人ひとり睡眠状態を把握しに中の活動量も配慮。疲労されていると感じるときは、自由に昼寝や休憩を取ってもらっている。不眠の訴えには水分補給等で睡眠できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとり生活歴を認識する事。利用者の得意とする事や出来る事を活かし役割として滞在している記憶を大切に楽しみ事や気晴らしする場所作りを自分らしく暮らせるよう努めている。		料理・園芸・パズル等に取り組んでいる。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員は理解しているが、金銭管理は出来ない方が多く個人でお金を所持すると混乱しトラブルを招き不信感生み出す傾向がある。買い物の際に見守りにて支払う事で出来る力を尊重し支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日などは一人ひとり配慮しながら周辺を散歩している。室内だけで過ごす事でストレスがたまりやすくなるので、短時間でも戸外へ出る機会を作っている。足の状態があまり良くない方はベンチに座られ日向ぼっこをされる。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりの希望を知り家族の協力にて墓参り食事や懐かしい場所、行きたい場所へ出掛けられるよう機会を作っている。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者が希望されれば、いつでも利用可能であり、又職員側からも声掛けし支援している。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族・友人・知人には、いつでも気軽に訪ねていただき、ホールや自室で一緒にお茶を飲まれ、話をしつゆっくり過ごして頂けるよう居心地の良い場面作りを支援する。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	家族の付き添いはいつでも受け入れており、気持ちよく過ごして頂くよう配慮している。又、家族より依頼があればいつでも対応できるように心配りする。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	家族と共に季節を感じてもらう事を大切にしている。四季折々の行事を計画し、家族等への一人でも多くの方の参加を促し、家族と利用者共有の時間を、過ごしていただくよう努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	毎月のスタッフ会議で、常に話し合い、法人の研修で学んでいる。安心と安全確保の為、思考をめぐらし、細かい声かけに努めている。		
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵はかけておらず、玄関チャイム又は、見守りで外出を察知、又は、外出傾向の把握をして、いつでも同行できる体制を準備している。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に見渡せる台所、ホールに職員が位置し、利用者の所在を把握。居室に入って居られる場合も、プライバシーを配慮しながら、定期的に声掛けし安全を確認しつつ、必要な時は会話のひと時を心掛けている。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物である刃物等は、職員見守りで利用者も使い、夜間は事務所で管理。洗剤等は夜間、鍵のある倉庫に保管している。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員のヒヤリハットによる報告や危険を受け止め、同じ事を繰り返さないように、事故の再発防止に努めている。マニュアルや研修で繰り返し学び防止策について共有している。		想定訓練の実施
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応については、その都度医療連携を取っている医師や看護師から指示を受けている。常日頃からマニュアルを見て学んでいる。心配蘇生術は、消防署の指導を受けている。		定期的な想定訓練の実施
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリハット報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、スタッフ会議を開き、事故報告書やヒヤリハット報告書にまとめ再発防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		専門家によるバランスやカロリーチェック等の助言あり。
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先には、季節の花を植え、常に清潔感を保持し、玄関に絵や写真を置き明るい雰囲気に関心する。下駄箱には入居者の手作りのパッチワークで飾り、履物が自分の物と分かるように工夫している。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	天窓から入る光が強い場合は、天窓用のカーテンをして配慮している。生活観や季節感が分かるように、利用者と一緒に作った壁飾りやカレンダー・花を置いている。一緒に出来る範囲で衣替えなどして、安心して過ごせる様にしている。	ディスプレイした作品などは、その都度画像に残し、ファイリングしていく。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間の中にはそれぞれの居場所があり、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使っていた家具や使い慣れた好みの物で本人が居心地良く過ごせる様にくふうしている。	温度計・湿度計を居室に設置したいが危険防止のため、ホールのみ設置。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気の良い日や掃除の時は、必ず窓を開け換気に努める。季節や状況に応じて、こまめに行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	廊下に手すりを設置してあり、滑りにくい床材を使用するなど利用者の移動に配慮している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗を招かないために、トイレや居室の場所が自分で分かるように、目印の貼り絵をしたり日付が分かりやすいように手作りカレンダーを見える場所に置き工夫している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前にはひなたぼっこ用のベンチを置き、一緒に花を植えたり敷地内で野菜作りをして収穫を喜び合っている。	玄関前には段差があり、杖歩行又、歩行不安定の方のためにも安全な構造が望ましい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない